

あとがき

「ウィンドウズを終了しています」というメッセージを初めて目にしたときは興奮した。その「終了」は十数秒続いただろうか。

アスペクト研究では一般に動詞の4分類が行われ、「終了する」という動詞は瞬間動詞で、「終了している」は終了した結果の状態を表す、ということになっていたものと思う。ウィンドウズのこのメッセージはそのような先入観に対決を迫るものと感じられた。

アスペクト研究は動詞の分類よりも動詞のそのつどとする出来事の時間的長さと発話者の認識に対応するものであると考えていた「構造伝達文法」にとって、このメッセージは励ましの声をかけてくれたもののように思われた。霧の中を内なるGPSを頼りに進まざるをえない「構造伝達文法」にとって、時に出会うこのような道しるべには勇気づけられる思いがする。

もちろん、それ以上に人々に励まされることが多い。ここではそのような方々に感謝の意を表したい。

八王子でのほぼ月1回の日本語文法研究会に集まり、あるときは発表者として、あるときは聞き役として、ともにいろいろ考えてくださる皆様に感謝申しあげる。とりわけ吉川武時先生(東京外国语大学名誉教授)にはいくつもの核心をつくアドバイスをいただいた。(改善させていただいた部分も多いが、生かしきれていない部分も多々ある。) 野田時寛先生(中央大学助教授)にもいろいろ教えていただいた。学部在学中よりこの理論の理解者であり、みずからも考察を進めている木村泰介氏にもいろいろ意見をいただいている。

お手紙・Eメール・電話により、ご質問・ご意見をくださる方々にも感謝申しあげる。何が理解しにくいのか、どの点を評価してくださるのか、お知

らせいただくことにより、説明法等に改善の余地のあることなどを知ることができます。が、それよりなにより、当文法に関心を持ち、考えてくださる方が存在するという事実に大いに励まされる。特に中須賀徳行先生(岐阜大学教授)には質問をいただいたばかりでなく、ご論文の中に引用もしていただき、励ましのお手紙もいただいた。

杏林大学の大学院の授業や学部のゼミの中で共に日本語について考えてくださる院生・学部生の皆さんにも感謝申しあげる。若い人の考え方や、韓国語・中国語・モンゴル語の視点からの発言に教えられることも多い。

この次の『日本語構造伝達文法 発展B』がいつ出せるかは見当もつかないが、皆様には引き続き、できれば温かく見守っていただければと思う。

また、考察・説明等における不備にお気づきの場合や、良い発想がある場合には、ぜひお知らせ願えればとも思う。(発想を役立たせていただいた場合にはご氏名を明記させていただきます。)

* * * * *

本書の次の部分は『杏林大学外国語学部紀要』(略して『紀要』とする)において発表した論考がもとになっている。

A 2 章 「日本語構造伝達文法(6)－『を』の示すもの／重複しない『を』」
『紀要』第12号 2000

A 4 章, A 5 章, A 6 章 「日本語構造伝達文法(7)－局面変化完了認知基
・タ／バの構造と前件」『紀要』第13号 2001

A 9 章, A 10 章, A 11 章 「日本語構造伝達文法(8)－複文のテンスとアス
ペクト」『紀要』第14号 2002

また、A 3 章の内容は『日本語教育』108号(日本語教育学会、2001)に発表したものである(A3章末尾参照)。

A VIII部の「構造練習帳(1)」は『日本語構造伝達文法』(2000)において使用した構造図を生かし、若干の図を補って練習帳の形にしたものである。

その他の部分(A 1 章, A 6 章, A 8 章, A 12 章～A 19 章)は未発表の論考である。

主要参考文献

- 『岩波国語辞典第5版』 西尾 実 他 1994 岩波書店
- 『岩波古語辞典』(補訂版) 大野 晋 他 1990 岩波書店
- 『角川新版 古語辞典』 久松 潜一 他 1993(1958) 角川書店
- 『言語学大辞典』 龟井 孝 他 1992～1998 三省堂
- 『広辞苑 第五版CD-ROM版』 新村出記念財団 2000 岩波書店
- 『国語学研究事典』 佐藤喜代治 編 1977 明治書院
- 『国語学大辞典』 国語学会 編 1980 東京堂出版
- 『時代別 国語大辞典 上代編』 上代語辞典編修委員会 1994 三省堂
- 『全訳古語例解辞典 第二版』 北原保雄 編 1994 小学館
- 『日本国語大辞典 第二版』 日本国語大辞典第二版編集委員会 2002 小学館
- 『日本語文法大辞典』 山口明穂・秋本守英 編 2001 明治書院
- 『日本文法大辞典』 松村 明 編 1971 明治書院
- 庵 功雄 2001 『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』
スリーエーネットワーク
- 伊藤 博 校注 1985 『万葉集』 角川書店
- 井上和子 他 1999 『生成言語学入門』 大修館書店
- 今泉 喜一 2000a 『日本語構造伝達文法』 摺籃社
—— 2000b 「日本語構造伝達文法(6)－『を』の示すもの／重複
しない『を』－」『杏林大学外国語学部紀要』第12号
—— 2001a 「動詞音便化の原則－接触の効率化をめぐって－」
『日本語教育』108号 日本語教育学会
—— 2001b 「日本語構造伝達文法(7)－局面変化完了認知基・タ
バの構造と前件－」『杏林大学外国語学部紀要』第13号
—— 2002 「日本語構造伝達文法(8)－複文のテンスとアスペク

トー」『杏林大学外国語学部紀要』第14号

- 梅田 博之 1991 『スタンダード ハングル講座 2 文法・語彙』 大修館書店
- 大野 晋 1955 「萬葉時代の音韻」 『萬葉集大成 6 言語篇』 平凡社
—— 1978 『日本語の文法を考える』 岩波書店
—— 1988 『日本語の文法 [古典編]』 角川書店
- 小沢 重男 1997 『蒙古語文語文法講義』 大学書林
- 尾上 圭介 2001 『文法と意味 I』 くろしお出版
- 清瀬義三郎則府 1989 『日本語文法新論』 桜楓社
- 金水 敏 1993 「古典語の『を』について」 仁田義雄編『日本語の格をめぐって』 くろしお出版 所収
—— 2002 「日本語文法の歴史的研究における理論と記述」 『日本語文法』 2巻2号 日本語文法学会
- 金田一春彦 1967 『日本語音韻の研究』 東京堂出版
- 釘貫 亨 1996 『古代日本語の形態変化』 和泉書院
- 久曾神 昇 1982 『古今和歌集』 講談社
- 工藤真由美 1995 『アスペクト・テンス体系とテクスト－現代日本語の時間の表現－』 ひつじ書房
—— 2002 「諸方言におけるアスペクト・テンス体系の動態－存在動詞と時間的表現－」 『国語論究10 現代日本語の文法研究』 明治書院
- 小島憲之 他 校注・訳 1994 『萬葉集』 小学館
- 小林 賢次 1996 『日本語条件表現史の研究』 ひつじ書房
- 小松 英雄 1981 『日本語の世界 7 日本語の音韻』 中央公論社
—— 1999 『日本語はなぜ変化するか』 笠間書院
- 鈴木 重幸 1972 『日本語文法・形態論』 むぎ書房
—— 1996 『形態論・序説』 むぎ書房
- 杉藤美代子 1996 『日本語の音』 和泉書院
- 坪井 美樹 2001 『日本語活用体系の変遷』 笠間書院

- 寺村 秀夫 1981 『日本語教育指導参考書5：日本語の文法(下)』 国立国語研究所
- 1982, 1984, 1991 『日本語のシンタクスと意味I, II, III』 くろしお出版
- 丹羽 哲也 1996 「ル形とタ形のアスペクトとテンスー独立文と連体節ー」
『人文研究』48-10 大阪市立大学文学部
- 1997 「連体節のテンスについて」 『人文研究』49-5 大阪市立大学文学部
- 野田 尚史 1996 『「は」と「が」』 くろしお出版
- 濱田 敦 1970 『朝鮮資料による日本語研究』 岩波書店
- 久松 潜一 1976 『万葉秀歌』 講談社
- ピンカー (Pinker, Steven) 1994 『言語を生み出す本能(上)(下) (The Language Instinct)』 (椋田直子訳) NHKブックス
- 益岡 隆志 編 1993 『日本語の条件表現』 くろしお出版
- 松下大三郎 1928 『改撰標準日本文法』 中文館／1984 勉誠社
- 松村 明 編 1969 『古典語現代語 助詞助動詞詳説』 學燈社
- 馬淵 和夫 1971 『国語音韻論』 笠間書院
- 三原 健一 1992 『時制解釈と統語現象』 くろしお出版
- 森田 武 1977 「音韻の変遷(3)」『岩波講座日本語5 音韻』 岩波書店
- 山口 壽二 1996 『日本語接続法史論』 和泉書院
- 山梨 正明 2000 『認知言語学原理』 くろしお出版
- 吉川 武時 1989 『日本語文法入門』 アルク